MOT Management of Technology

大阪ガス GROUP

技術と経営をアイが、繋ぐ。

SUPPORT

大阪本社　大阪市中央区平野4-1-2大阪ガスビル

東京オフィス　東京都港区浜松町1-18-16住友浜松町ビル3階

www.isupport.jp/

人材育成という、
未来戦略。

人材育成という、未来戦略。

Corporate Profile
会社案内

株式会社 アイさぽーと

技術と経営をアイが、繋ぐ

We combine technology with management.

最上の経営資源、それは言うまでもなく人材です。一人ひとりの知力や創造力が、躍進の大きな原動力となり、一人ひとりの豊かな感性や情熱が、企業の新たな可能性を切り拓いていく。企業活力を支えるのはまさに人のチカラです。社員のポテンシャルをいかに最大限に引き出し、活かしていくか。「アイさぽーと」は、そうした企業の課題に応え、戦略的な人材育成の支援をめざしています。技術力を経営に繋げるために。人材という最重要資源の価値をさらに高め脈動させるために。そして、ともに夢を描き実践できる、真のリーダー育成に向けて。私たち「アイさぽーと」は、企業の進化に貢献する、オンリーワンのビジネスパートナーでありたいと考えています。

■サービス概念図

人材育成サポート
Human Development Solution.

- MOTスクール事業
- MOT企業研修事業

人事業務サポート
Business Support Solution.

「アイさぽーと」は、大阪ガス株式会社の人事部門から独立する形で創業したトータルソリューション・プロバイダー企業です。
[人材育成サポート]と、人事間接業務を支援する[人事業務サポート]をビジネスの柱として、企業経営の課題に幅広く対応し、戦略的な人事業務をサポートいたします。

未来を創る。

Create the future.

MOT［技術経営］
Management of Technology

テクノロジーマネジメントの
手法や発想を活かして、
イノベーションの新たな可能性を
創出できるMOT人材を育成する。

技術力をいかにビジネスチャンスに結びつけ、経営的視点や中長期展望も見据えた技術ビジョンをどのように描くか。企業を取りまく環境が日々ダイナミックに変化を続ける中、単に技術進化に貢献するだけでなく、これまでに培った技術資源を活かして新たなビジネスモデルを創出できる技術者が渇望されています。私たち「アイさぽーと」は、こうした企業の要請に応えるべく、MOT［Management of Technology］の考え方を基盤とした独自のスクール事業・企業研修事業を展開し続けています。さまざまな技術の価値を戦略的に捉え、新たなブレークスルーの道を探る。技術とマーケットと企業経営を等距離に見据えながら、広範なイノベーションの創出に挑む。MOTの知識やノウハウを身につけた人材の育成は、企業が成長し続けるための必修課題だといっても過言ではないでしょう。一流の技術力を、一流のビジネスマネジメントパワーへ。「アイさぽーと」は、企業の未来を支えるMOT人材の育成を力強く支援いたします。

Management of Technology MOT

MOTとは…

技術経営［Management of Technology］「技術に立脚する事業を行う企業・組織が、持続的発展のために、技術が持つ可能性を見極めて事業に結びつけ、経済的価値を創出していくマネジメント」※です。1960年代、米国の大規模研究開発プロジェクトのマネジメントに端を発するとされる技術経営は、時代の変遷とともにその中心とするテーマを変化させてきました。米国においては、1980年代後半以降本格的に研究・導入され、技術革新による産業競争力強化の実現に重要な役割を果たしたといわれています。MOTは不確実な技術やマーケットから価値を産み出す、富を創造するマネジメントと言われています。

※経営者の定義

今なぜMOTなのか

近年、特に製造業においては、研究開発に対する投資が企業の営業利益に結実しにくいと言われています。その背景には、急速な技術革新やグローバルな市場ニーズの変化などの流動性が高まる中で、研究成果を戦略的にどのようにマネジメントしていくか、その判断が大変難しくなっていることがあります。「技術」と「経営」の2つの視点から、先見性、論理性、実効性を有した総合的な技術施策を企画、立案、実行し、企業や組織を牽引していくことが求められています。「アイさぽーと」のMOT教育では、不確実な状況下にもより的確な意思決定を可能にする「技術経営スキル」の養成をめざしています。

MBAとの違い

旧来のビジネス研修・講座の主流を成していたであろうMBA［Master of Buisiness Administration］の基本的な考え方は、既存の技術やパラダイムの枠内で最大の利潤を得るというものです。これに対してMOTは自社の技術資源を最大限に活用して、枠を超えた価値を創出すること、イノベーションにより企業を発展させる発想や考え方です。高付加価値化によるマーケット戦略が主流の時代にあって、既存の概念にとらわれないMOTの考え方を学ぶことは、技術者の視野や創造力を新たな世界に広げる、有形無形の意義を持つと言えるでしょう。

技術×経営＝∞

技術と経営が結びつき、無限大の可能性が産まれる。

人材育成サポート
MOTスクール

私たちは、MOTの考え方や手法を学ぶMOTスクール事業を東京・名古屋・大阪の3拠点で展開しています。企業やアカデミズムの第一線で活躍する講師陣を招聘して、最先端の理論をお伝えするとともに、グループディスカッション主体のケースメソッドを積極的に取り入れた実践的・体系的な教育プログラムを提供することで、高度なテクノロジーマネジメント能力を備えた人材の育成をサポートしています。

人材育成サポート
MOT企業研修

私たちは企業や組織が求める人材のレベルに合わせた、オリジナルのMOT研修活動も推進しています。さまざまな課題や要請に応じて、テーラーメイドのプログラムの作成から講師陣の派遣、研修後の成果の確認、実践・定着のフォロー活動に至るまで、MOT理論・手法の習得を全面的にサポートします。企業や組織の実状に即した、カスタマイズ仕様のプログラムによって、より実践的かつ効率的なスタッフ教育を実現します。

ここが違う
「アイさぽーと」のMOT

社会インフラを支え続ける大阪ガスグループの一員として、私たちの事業理念の根幹を成すのは、「日本の企業や技術の活性化に貢献したい」という強い使命感です。それゆえ、MOTの推進に際しましては、企業に真に役立つ「実践力」を第一義に考えています。さらに知識や手法の習得にとどまらず、人間力や交渉力の向上にも目を向けたMOT教育を推進しています。企業の新たな活力や組織の求心力となり得る、ファシリテーター型リーダーを育成します。

革新を起こす。

Bring innovation.

人材育成サポート

MOTスクール

ビジネスの第一線で活躍する講師陣、
実務に応用できる多彩なカリキュラム。
そして創造的なグループディスカッション。
実践的な教育で次代のリーダーを育成します。

経営の観点から技術を俯瞰し、新たなビジネスに結びつけられる技術者をひとりでも多く世に送り出すために。私たちのMOTスクール事業は、さまざまな企業や組織のMOT人材育成に寄与しています。企業や研究機関の第一線で活躍する講師陣より学ぶ最先端のMOT理論、多種多様なケーススタディを盛り込んだカリキュラム、そして異業種のリーダー達との刺激的なグループディスカッション。MOTスクールでは、ビジネスの最前線を担う企業の視点に立った、充実の教育プログラムを提供。実務に直結する知識やノウハウが1年間で学べるコース設定を採用し、実践的であることを何より重んじた学習システムに徹しています。累計600名を超える修了生、92%もの講義出席率、そして20代から60代におよぶ幅広い受講年齢層。さまざまな数字がMOTスクールの意義と評価を物語ります。人と社会と企業を繋ぐ、知のプラットフォームとして。私たちは技術者一人ひとりのポテンシャルを最大限に引き出し、次代を支えるリーダーの育成をめざしています。

企業ニーズに応えた創造的かつ戦略的な教育手法を導入。技術とマネジメントの複眼的なノウハウがイノベーションを創出する。

MOTスクールは、不確実な状況下でも的確な意思決定のできる「技術経営スキル」を習得することで、技術マネジメントの観点から新たなイノベーションの道を探る、多様なノウハウを養っていただくことを目標としています。

実践的カリキュラム

多くのケーススタディ、異業種ディスカッションを通じ、実践に即した研修を実現しています。

単なる理論習得にとどまらず、手法やノウハウを実践へと応用できる体系的なカリキュラムを編成。技術マネジメントの知識とスキルがバランスよく学べます。

1 経営・基礎

技術経営を学ぶために、経営に必要な基礎理念や戦略的・創造的思考能力について学ぶ。

イントロダクション

- 創造的思考法・リーダーシップ
- 財務・会計
- ファイナンス
  - 事業価値評価
  - 技術価値評価
- 経営戦略

MOT School Curriculum

2 技術経営[MOT]

技術経営を理解し、技術マネジメントに必要な知識を認識する。また、技術戦略的思考を身につける。

技術戦略

- 全社技術戦略
- 競争戦略
- ブルーオーシャン戦略

技術マネジメント

- イノベーション戦略
- R&Dマネジメント
- R&D戦略と技術ロードマップ
- 技術マーケティング

知的財産戦略

- 知的財産戦略

3 実践力

技術経営実践力を高める。事業化の推進を行う。プロジェクト組織やその進め方について学び実践に備える。

プロジェクトマネジメント

- 変革プロジェクトマネジメント

創造的シナリオライティングを学び、また、テーマごとにプロジェクト運営とビジネスプランニングの実践を行う。

事業化プランニング・トレーニング

- アントレプレナーシップ
- ビジネスプランニング

実践ビジネスプランニング

4 特別講義

実務家、企業経営者、CTOなどによる実践事例を紹介する特別講義を実施。

特別講義

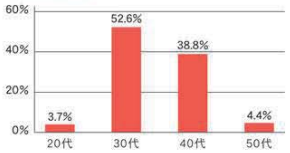
- 知財視点・三位一体の経営
- 最新のグローバル戦略とグローバル人材
- 新技術・新商品創造の事例　など

受講者概要

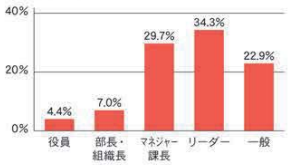
多種多様な業界・職種・年齢の受講者が参加されています。

リーダークラスの技術者を中心に、これまで幅広い業界・世代・役職の方々が受講。修了後は、習得したMOTの手法やノウハウを活かし、新規プロジェクトのリーディングスタッフなどとして活躍されています。

■ 受講者年齢



■ 受講者役職



■ 受講者職種

多彩な講師陣

サイエンスという視点からMOTを評価し、方法論を提示できる理論的能力を持つ専門家を全国の大学、企業から招聘しています。

ティーチングスキルはもちろん、理論分析やケーススタディ、ディスカッションの優れた手腕を持つ一級の講師陣が、MOTの基本と応用をレクチャーします。

主な講師

大阪大学・神戸大学・京都大学・学習院大学・東京工業大学・早稲田大学・立命館大学・一橋大学・芝浦工業大学・東京理科大学・九州大学などの教授および准教授、コンサルティング会社コンサルタント、実務家、ベンチャー企業経営者等の企業講師　など

ZADANKAI　MOTスクールでは、時空を超えて新たなイノベーションが生まれている

■ MOTスクールで得た収穫とは

林　技術開発力はあっても、事業として展開させる術が分からない。それは私を含め多くの技術者の課題だろうと思います。それでMOTスクールの受講を会社から打診された時、真っ先に手を挙げました。受講してみて、技術をビジネスに結びつける多様なノウハウを学ぶことができ、私にとっては非常に大きな転機となりましたね。

鈴木　以前に「アイさぽーと」さんの社内研修を受けたことがあり、MOTの基本的な概念はありましたが、新事業のフレームワークづくりに悩んでいました。自分と同じ**リーダークラスの技術者が参加するMOTスクールなら**、貴重なヒントが得られるのではないかと考え受講したのですが、斬新な意見や発想と出会え、期待を上回る収穫がありました。

前田　受講生同士の交流もさることながら、私にとって講義はそれ以上に刺激的でした。**講師陣のキャラクターがそれぞれ個性豊かで**、話も面白く、しかも技術者のモチベーションの高め方とか、興味深いテーマが多いため、思わず引き込まれていく。実にエキサイティングな体験でした。

岩井　そう、**徹底的に実践志向**なので、スクールで教わるのは、手法にしろ、発想法にしろ、仕事でこれは使えそう、というものばかり。私が欲しかったのはまさにそういう実用性・即効性の高い知識で、手持ちのカードが一気に増えた感じでした。

向井　受講するまでMOTという言葉すら知りませんでしたが、マネジメント能力の必要性は痛感していました。成功事例や経験談をまじえた中身の濃い講義を受けて視野や発想が広がり、技術者の描くべきシナリオがどんなものか学べました。

■ MOTを学んで仕事はどう変わった

鈴木　スクールの成果のひとつは、プレゼン能力が向上したことでしょうか。新規事業に関する提案書を作って上司を説得したり、以前は苦手だったことが自信を持ってやれるようになり、**新たな事業モデルを構築したいという目標や意欲も芽生え**つつあります。「表情や態度がポジティブになったね」などと同僚から嬉しい言葉をもらうほどです。

向井　MOTを学んだことにより、自分の**アイデアやプランの理論的な裏づけができる**ようになりました。ずっと立ちふさがっていた大きな壁をひとつ越えた感じですね。加えて、発想や着眼の引き出しが格段に増えました。それらが相まって**リーダーとしての自信**にも繋がっている気がします。

前田　確かに自信は深まりましたね。ロジックの構築などにおいても、漠然とした自信ではなく、根拠のある自信に変わりました。それは生の声を通じて多種多様な考え方や方法論とふれ合えたことが大きかったと思いますね。より多面的・複眼的な見方や考え方が備わり、上司や部下にも確信を持って主張できるようになりました。

岩井　実践的な手法の習得により、事業戦略などを策定する際も、どんなデータで裏づけ、フレームワークをどう構築すれば説得力が増す、といったノウハウが分かってきました。そしてそれ以上の価値を感じているのが、講師陣の方々から受け取った、熱意こそ技術進化の原点、というメッセージです。ともすれば忘れがちな技術者の基本姿勢を再認識させられましたね。

林　まず熱意ありきですよね。私もグループディスカッションの体験が成長の糧になったと感じています。**共通の課題意識を持つ技術者同士が血の通った熱い議論を交わし、ともに新しいアイデアや可能性の糸口を探す。**新鮮かつ得難い体験で、そこで共有したものは有形無形の財産となって、さまざまな面でのスキルアップに繋がっていると実感しています。

■ 次代のエンジニア像について熱く語る

鈴木　これからの技術者像を考えた場合、やはり顧客をイメージできる力が不可欠だと思います。顧客不在の技術をどれだけ追求してもそれはエゴに過ぎません。顧客が何を求め望んでいるのか、MOTの理論や発想をベースに、顧客本位の技術開発をめざしたいと考えています。

林　当然ながら技術には妥協なくこだわるべきです。ただ良いものを作っても売れるとは限らない時代。技術力の評価を高めるためにも、その技術がどんなビジネスチャンスを生むのか読み取る力が必要ですし、ビジネスとして成功することが技術者としての真のプライドだろうと思っています。

前田　同感です。付け加えるなら、ひとりの技術者の頭の中に技術と経営の考え方が共存することに意味があると私は考えていて、そこで生まれる化学反応のようなものこそ、技術創造の新たな可能性を拓く原動力ではないかと信じています。

岩井　これからの技術者には人とのコミュニケーション能力も重要視されてくると思います。オープンに人と繋がっていける力といいますか、技術のプロであると同時に、人間としての魅力や社会性も問われていくでしょうね。

向井　その考えには共感しますね。木を見て森を見ず、という技術者であってはいけないと思うんです。人も、技術も、市場も、社会も、全てを見渡し俯瞰できる技術者へ。その理想像に向けて、MOTスクール修了生という素晴らしい繋がりも最大限に活かしつつ、ネットワークの輪を広げていければと考えています。

ZADANKAI member

「志」を一つにした者達が
今、ここに集結する──。

one

Profile　前田 和久さん　Kazuhisa Maeda
化学メーカー勤務
●2011年 名古屋校第5期修了

two

Profile　林 利和さん　Toshikazu Hayashi
精密機器メーカー勤務
●2012年度 イノベーションリーダー養成コース修了

three

Profile　岩井 義孝さん　Yoshitaka Iwai
化学メーカー勤務
●2013年度 エッセンシャルコース修了

four

Profile　向井 浩さん　Hiroshi Mukai
硝子・化学メーカー勤務
●2013年度 イノベーションリーダー養成コース修了

five

Profile　鈴木 保彦さん　Yasuhiko Suzuki
医療機器メーカー勤務
●2013年度 イノベーションリーダー養成コース修了

数字が実証する「アイさぽーと」の真価

2002年 長年にわたり蓄積されたデータと実績
民間初のMOTスクール開校
2002年10月に民間企業として初の本格的なMOTスクールを大阪で開校。以来、実践的な教育内容で経営人材を育成し続けています。

600名突破 技術経営人材を育成
MOTを実践できる即戦力の修了生を輩出
MOTスクールの受講者数は累計600名を突破(2014年3月時点)。広範な業種のリーディング技術者を社会に送り出しています。

3校体制 3大都市圏で開校
国内の主要都市である東京・名古屋・大阪に開校
MOTスクールは東京・名古屋・大阪の3校体制。受講者の勤務地などに応じて最も利便性のよいアクセスの学校を選んでいただけます。
◎名古屋地区はMOTイノベーションリーダー養成コースとして開催しています。

92% グループディスカッション形式の講義スタイル
驚異の講義出席率の高さ
MOTスクールの講義はグループディスカッション中心の実践的な内容。平均92%という出席率の高さが講義の魅力を物語ります。

信頼を築く。

Establish trust.

人材育成サポート

企業研修

企業の持続的な発展と成長に向けて。
企業のニーズと課題を深く共有した
テーラーメイドのMOT企業研修によって
未来戦略を担う人材育成を支援する。

技術潮流やマーケットの動向が常に変化する時代にあって、私たちはMOTの考え方や手法にいち早く着目し、企業変革へのステップとして、MOTの導入をお伝えしてきました。ただ言うまでもなく、企業によって導かれる「解」も、そこへ挑み歩まれる道筋も異なります。そこで私たちは、個別企業のご要望を掌握した上で求められる人材を養成する、いわばテーラーメイドの企業研修事業を展開しています。各企業の強みや培ってこられた技術・資産を最大限に活かすには、どんな戦略を構築すべきか。持続的な発展と競争力強化を図るには、どのような未来像を掲げるべきか。私たちは各企業の抱える経営・技術課題と求める人物像を密に共有しながら、最適の研修プログラムを練り上げご提案します。しかもひとりの担当者が、企画からアテンド、フォローアップまで全責任を持って受け持つ、完全専任体制を採用。研修現場の声と期待に細やかに応える、実践的なMOT研修にこだわっています。私たちは、信頼の絆で人と企業を繋ぎ、ともに夢を描けるパートナーをめざしています。

組織を横断しての企業研修だから
企業課題や戦略の共有が図れ
部署間の変革に対する温度差も解消。
全社的な変革意識を育みます。

部署の垣根を越えてMOTの考え方を学び、共有することで、個人のスキルアップにとどまらず、全社一丸となって企業変革に挑もうとするモチベーションが産まれるなど、有形無形の相乗効果が期待できます。

「アイさぽーと」のMOT研修の狙い

テクニカルマネジメントのノウハウと手法を身につけ、イノベーションの創出に貢献する人材の育成をめざします。

技術の持つ可能性を見極めてビジネスに結びつけ、より高度な戦略が策定できるような社内リーダー、いわば企業の未来戦略の支柱となるMOT人材を育成します。

事業のビジネスモデルや商品コンセプトをデザインする力 ＋ 技術経営関連領域を包括的に理解した上でのマネジメント力

これら **2つのスキルを兼ね備えた人材** の必要性が高まっています。

企業研修プログラム3つの特長

企業の技術基盤や課題、戦略の方向性などに応じてきめ細やかにカスタマイズしたMOT研修を実践します。

企業のニーズを掌握・分析した上で最適のプログラムやカリキュラムを作成するとともに、講師陣とのマッチングも考慮。より実効性の高い企業研修をお約束します。

- one　研究者・開発者をはじめとする技術系人材の育成プログラム
- two　お客さまの課題・ニーズに対応したカリキュラム設計
- three　ティーチングに優れた講師陣

テーラーメイドMOT研修の流れ

研修内容の企画から現場立ち合い、フォローアップまで、弊社が責任を持ってトータルディレクションいたします。

ヒアリングにより確認した研修のご要望や、企業の経営計画・課題などを考慮し、講師やプログラム案をご提案。研修にも弊社担当者が立ち合い、研修後の評価総括やフォローアップも同じ目線で行います。

- Step 1　ニーズ・目的の確認
- Step 2　プログラム案検討・作成
- Step 3　プログラム案ディスカッション
- Step 4　研修プログラム実施
- Step 5　研修の評価・レビュー

企業研修の進め方

講義とケーススタディの融合学習により、論理的思考力や発想力、マネジメントスキルを統括的に習得します。

MOTの基本的な理論を講義で学んだ後、他社事例を参照・分析しながら、自社の課題や改善策などについてグループディスカッション、プレゼンテーションを実施。実践に徹した中身の濃い研修を実現します。

講　義
基本的な理論・手法・主要論点の理解

ケーススタディ
課題についてグループディスカッション、現状把握、課題抽出、改善策や事業戦略の検討 など

プレゼンテーション
ケーススタディの検討結果発表、意見交換と講評

お客さまのご要望に沿ったテーラーメイドMOT研修の内容

ニーズやご要望、対象者層に合わせて、最も成果の期待できるプログラムを作成し、ご提供します。

論理的思考法や、経営・技術戦略の実践手法、マネジメント・ノウハウ、ビジネスモデル構築法など、企業のニーズに則した研修プログラムを作成・ご提案します。

ロジカルシンキング・クリティカルシンキング ● 論理的思考 ● 創造的思考	論理的思考と革新的な商品・事業コンセプトを産み出すために必須となる創造的思考についての理解を深めます。	**プロジェクト&プログラムマネジメント** ● 組織プロジェクトマネジメント ● プロジェクトマネジメント実践	プロジェクトマネジメントの必要性、基本的な考え方について理解していきます。
経営戦略・技術戦略 ● 経営戦略・技術戦略 ● 経営戦略ケーススタディ	経営戦略、技術戦略上のエッセンスについてケーススタディを通じて戦略的な実践手法について学びます。	**アントレプレナーシップ** ● R&D戦略とその事業化 ● 研究開発型ベンチャー事例研究	今後の研究開発のあり方、企業の多角化の分析などを通じた新事業を創出していくための戦略について学びます。
テクノロジーマネジメント ● 技術マーケティングと技術ロードマップ ● 技術金銭的価値と価値創造・向上	テクノロジーからプロフィットを産み出すための、技術戦略を含めた競争戦略についてケーススタディを通じて学びます。	**イノベーションマネジメント** ● イノベーションの起源と戦略	イノベーションから出発する技術経営の方法を考察し、ビジネスモデル革新・コアプロダクト戦略について学びます。
知的財産戦略 ● 知的財産戦略論 ● 知的財産戦略ケーススタディ	特許戦略・知材戦略の実態を理解し、頻発する職務発明の対価をめぐる紛争事例、法改正動向への対応を学びます。	**ビジネスモデル作成** ● ビジネスプランニング	研究開発からビジネス化の過程で、実際に起きた問題について演習形式で学び、実際の仕事で使える知識を習得します。

体系的MOTプログラム研修例

若手・リーダークラス向け研修

Step 1 MOT概論

戦略とは何か、技術戦略の位置づけ、イノベーションプロセスなどの基礎知識や近年注目される戦略理論について学びます。

	AM	PM
1日目	MOT概論	経営戦略基礎
2日目	製品開発マネジメント概論	技術戦略概論

Step 2 競争戦略・イノベーション実践編

戦略の基礎知識および事業戦略と研究戦略・イノベーションとの関係などを学び、技術経営戦略を展開するための知識を習得します。

	AM	PM
1日目	競争戦略概論	競争戦略ケーススタディ[2社]
2日目	イノベーション戦略	イノベーション戦略ケーススタディ[2社]

中間管理者・マネージャー向け研修

Step 3 プロジェクトマネジメント

タスク・課題を的確に遂行するためのマネジメントスキルを身につけます。

	AM	PM
1日目	プロジェクトマネジメント	プロジェクトリスクマネジメント
2日目	戦略定義のワークショップ	プロジェクト展開ワークショップ

Step 4 技術の金銭的価値評価・収支計画

技術の持つ金銭的な価値を考察し、その技術が活用できるビジネスシナリオを検証します。

	AM	PM
1日目	技術の金銭的価値評価の手法	ビジネスプランと技術のマーケティング
2日目	技術の金銭的価値向上策の検討	ビジネスシナリオ評価

トップマネジメント層向け研修

Step 5 事業化プラン作成

他社の事業化ケースと自社の事業化プランの検証を行い、事業化における意思決定のための必要な知恵を身につけます。

	AM	PM
1日目	事業シナリオ作成ガイダンス	事業シナリオ評価・考察[他社ケース]
2日目	自社事業シナリオグループワーク	自社事業シナリオグループ発表

MOTエッセンシャル研修

コスト管理、戦略立案、プロジェクト管理、意思決定などに必要な知識を短期集中的に学びます。

	AM	PM		AM	PM
1日目	MOT概論	ロジカルシンキング	5日目	イノベーションマネジメント	
2日目	経営学基礎［ファイナンス戦略・コストマネジメント］		6日目	知的財産戦略	
3日目	ビジネスモデリング		7・8日目	プロジェクト・プログラムマネジメント	
4日目	経営戦略・技術戦略		9・10日目	テクノロジーマネジメント	

MOT研修導入企業 研修担当者さまの声

「アイさぽーと」のMOT企業研修は、規模や業種の枠を超えて、高い信頼と評価の声をいただいています。

これまでにMOT企業研修の実施を決定された研修担当者さまが、研修を申し込まれた動機や、研修の成果、社内の反応などについて語ってくださいました。

■ 技術者の意識変革が全社的に進行

経営 的な視点は、カンパニー制を導入する当社の技術者にとり、きわめて重要な資質といえます。企業向けの技術経営研修を長年手がけてきた「アイさぽーと」さんのMOT研修は、期待通り技術経営を実践に生かすための理解が深まるとともに、技術を核として価値獲得を図る意識など、さまざまな意識変革にまで、繋がっています。学んだ技術経営のフレームワークが仕事に役立っている、という声も多く、MOT研修の「実効性」をあらためて実感しています。

Witness 01

川崎重工業株式会社

人事本部
人財開発部 技能研修課
課長 作川 孝一さま

■ 戦略的な発想に立った技術開発姿勢が定着

視野 を広げ、顧客の目線に立った技術開発が行えるようになること。MOT研修に期待したのは、経営的な視点や思考力の養成でした。成果のひとつとして、経営や戦略的な視点で技術を考えようとする意識が着実に芽生えてきたように思います。さらに全社的な観点から戦略の立案に取り組む姿勢が生まれ、他部門とのコミュニケーションの重要性も従来以上に強く認識されつつあります。有形無形の収穫が得られた研修であったと、確かな手応えを感じています。

Witness 02

東洋ゴム工業株式会社

管理本部
人事総務部 人材開発担当責任者
課長 上野 真由さま

研修担当者さまの証言 だから、「アイさぽーと」が選ばれる。

■ 技術的価値を広く的確に伝える力が向上

研究 成果をどう事業に結びつけるか、それは全社的な課題であり、まず私自身が「MOT短期集中コース」を受講して実践的な教育内容を実感した上で、研修を申し込みました。研修によって、研究技術者のポテンシャルがさらに引き出され、技術的価値を社内外に伝える力も格段に増しつつあります。最初は研究所のみの受講でしたが、経営企画部門や製造部門を対象とした研修も実施。イノベーションを起こせる企業文化・風土が少しずつ根づき始めたように感じています。

Witness 03

エバラ食品工業株式会社

中央研究所
技術情報課
課長 小島 賢さま

■ 技術偏重から脱し顧客本位の視点を獲得

論理 的な思考力は優れていても、目標が技術課題の達成にとどまっている。当社の技術者の課題を解消すべく、MOT研修を申し込みました。研修を受けたことで、旧来の手法から脱し、強い危機感を持ってイノベーションに挑まないといけないという意識が全社的に浸透し始めました。技術に偏っていた視野や発想が広がり、顧客の目線で自社の技術と未来を考える集団に生まれ変わったように思います。徹底して実践的なMOT研修だからこその成果だと捉えています。

Witness 04

NGK人財開発株式会社

日本ガイシ株式会社 人事部
人材育成部門
マネージャー 大杉 幸久さま

企業研修 実施事例

金属製品メーカーさま：「技術リーダー養成プログラム9.5日間」
硝子メーカーさま：「基礎マネジメント研修［初級・上級］5日間」、「MOT講演会3日間」
医療機器メーカーさま：「新規ビジネス創出・実践MOT研修4日間」
電気機器メーカーさま：「MOT概論、創造的思考法、技術マーケティング、経営・組織戦略、プロジェクトマネジメント5日間」
鉄鋼メーカーさま：「経営戦略・技術戦略、プロジェクトマネジメント4日間」
化学メーカーさま：「MOT概論、イノベーション、ファシリテーター型リーダーシップ4日間」など

研修施設運営［大阪ガス奥池ロッジ］

瀬戸内海国立公園区域内に位置し、六甲山麓の豊かな自然環境に調和する外観を備え、傾斜地を利用して2階建3棟の研修施設を運営しています。

安心を支える。

Support peace of mind.

人事業務サポート

人事業務のギャップとリスクの解消へ。
高付加価値なソリューションサービスのご提供で、
企業経営の合理化と資源最適化を支援します。

私たちは、企業の人事業務のサポート事業にも力を注いでいます。独自のプログラムを駆使して人事業務の改善策をご提案するコンサルティングサービス、人事業務効率化を実現するワークフロー「アイサポートシステム」の開発、さらには人事業務全般のアウトソーシングなど、企業経営の合理化と資源配分の最適化に貢献する高付加価値なソリューションサービスをご提供。アイサポートならではの広範な対応力で、企業の持続的な成長と競争力強化を力強くご支援いたします。

ワークフロー

「アイサポートシステム」を活用して、人事業務のスピードアップを図ります。

「アイサポートシステム」とは、Web上で勤務管理・人事給与・経費精算などの申請・照会及び決裁を行い、業務の効率化を図るワークフローを実現するシステムの総称です。貴社基幹システムとの連携もスムーズなので、データの二重管理の手間も不要です。

人事給与・経費精算の申請・照会システム
アイサポート人事給与・経費精算

日々の勤務報告・実績管理システム
アイサポート勤務管理

アウトソーシング

お客さまのニーズに合わせて、フル業務から個別サービス委託まで選択が可能です。

ワークフローシステム、給与計算を含む事務処理代行から社会保険の届出までトータルなサービスをご提供します。また、各種福利厚生のアウトソーシングもご提案しております。

※社会保険業務は提携社会保険労務士が行います。

社会保険業務 ― 給与・賞与計算 ― 年末調整事務 ― 福利厚生 ― 人事事務

コンサルティング

BPRから人事制度まで幅広くサポートします。

大阪ガスグループのノウハウを結集し、業務改善、シェアードサービスセンター構築、人事制度構築・見直し、福利厚生［カフェテリアプラン構築、年金・退職金制度構築など］まで幅広くサポートします。

BPRコンサルティング

「業務改善プログラム」で人事給与業務の課題解決をお手伝いします。

現行業務の分析、課題の明確化、新たな業務フローの設計を通じて、各企業さまの人事業務運営上のムダ・手間・リスクを見直し、業務改善を実現します。

人事制度コンサルティング

人事制度・給与制度のお悩みを解決いたします。

働きがいのある職場の実現に向けて、お客さまのニーズに的確にお応えする人事制度をご提案します。経営戦略との調和を図り、その推進を強力に支える制度を構築します。

福利厚生コンサルティング

企業と従業員のニーズに合った福利厚生制度をご提案いたします。

充実した生活を営み安心して職務に専念できるよう、企業と従業員のニーズに合った福利厚生制度をご提案します。大阪ガスグループでの業務受託実績から、福利厚生の手続業務を代行します。

Top Message

「アイさぽーと」は、2001年に大阪ガス株式会社の人事部門から独立するかたちでスタートした会社です。

厳しい競争環境とともに、労働人口の急激な減少、雇用形態の流動化、グローバル化など、最も重要な経営資源である「人」を取り巻く環境は大きく変化してきています。そのような環境下で、優秀な人材を育成・確保するとともに、多様な人材を戦略的かつ効率的に配置することは重要な課題です。そのようなお客さまの課題を解決させていただくために、当社は二つのソリューションをご提供しております。

一つは、人材育成のご支援です。特に、「開発した技術をいかにビジネスに結びつけるか」を目標としたMOT［Management of Technology］研修に力を入れております。2002年に民間初のMOTスクールを開講し、将来を担う「イノベーション・リーダー」―「技術」と「経営」の2つの視点から、先見性・論理性・実効性を有した総合的な施策を企画・立案し、的確な意思決定を行い、企業や組織を牽引して、成果を上げていく人材 ―― の育成を強力にサポートしてまいりました。「MOTスクール」「短期集中コース」とともに、個々の企業さまのニーズにお応えする「MOT企業研修」におきましては、長年の実績のある優れたカリキュラムと、幅広い専門分野をカバーする実践経験豊富な講師陣が、必ずお客さまの人材育成に貢献できるものと自負しております。

もう一つは、人事間接業務の効率化へのご支援です。社内の経営資源をより付加価値の高い戦略的な業務にシフトしていただくために、ワークフロー「アイサポートシステム」※のご利用や、給与計算業務などを当社にお任せいただくことにより、お客さまの人的経営資源の配分最適化に貢献いたします。これまで培ってまいりました豊富な経験とノウハウによりまして、確実に人事間接業務をサポートいたします。

これからも、「アイさぽーと」は、お客さまのご要望に的確にお応えするソリューションをご提供し、末永くお付き合いいただける会社をめざして努力いたす所存でございます。

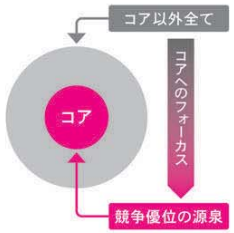
「アイさぽーと」をどうぞよろしくお願い申し上げます。

※「アイサポートシステム」…大阪ガスの人事部が開発、従業員さまの使いやすさを追求した、申請・照会機能を持つWeb型セルフエントリーシステム。ペーパーレスの実現とともに社外からのアクセスが可能で、申請・照会に場所を選びません。

代表取締役社長
水谷 弘
Hiromu Mizutani

Corporate Concept

21世紀の企業経営は、コア・コンピタンスへの資源集中と、戦略的アウトソーシングを通じた、間接業務の徹底した効率化が不可欠となっております。一方、企業経営の中核を成す人材開発では、技術を事業の核に据え持続的発展を進めるための技術経営の視点が重視されており、従来にまして事業の根幹に密着した、実践的な専門人材の育成が要請されています。私たちは「人事業務ソリューションプロバイダー」として、あらゆるお客さまにご満足いただける"Business Support Solution"、"Human Development Solution"を提供して参ります。



戦略的人材活用・育成

変化が激しい時代における最も重要な資源は、❶時間 ❷スキルのある人材 ❸経営者のスピーディーな判断です。競争優位の源泉は「人」です。

外部専門家の活用

コア以外から経営資源を引き出すには、❶集中化 ❷標準化 ❸モジュール化 ❹最適化 ❺アウトソーシングの5段階があります。外部専門家活用は最善策です。

アイさぽーと社ソリューションのご活用

Corporate Summary

会社名	株式会社アイさぽーと
代表者	水谷 弘
設立	平成13年6月［同年10月サービス開始］
資本金	5000万円
従業者数	58名［平成25年4月1日現在］
所在地	大阪本社　大阪市中央区平野町4−1−2 大阪ガスビル TEL.06−6205−4763［代表］
	東京オフィス　東京都港区浜松町1−18−16 住友浜松町ビル TEL.03−3524−3810
売上高	9億7600万円［平成24年度実績］
公的資格	確定拠出年金運営管理機関
	［アイさぽーとDCセンター］
	認可番号 厚生労働省発年第0728006号
	金監第2129号　認可日 平成15年7月28日

たいせつにします プライバシー
20000156